

茂原市自治基本条例を考える市民フォーラム
参加者アンケート結果

平成 25 年 3 月 16 日(土)

会場:茂原市役所市民室

1.開催概要

平成 25 年 3 月 16 日(土)13 時～16 時

会場:茂原市役所市民室

主催:茂原市・茂原市自治基本条例を考える市民の会

第 1 部:

茂原市自治基本条例を考える市民の会報告

「自治基本条例についての基本的な考え方」

基調講演

「自治基本条例と市民参加」

講師:千葉大学法経学部准教授 関谷 昇氏

第 2 部:

ワールドカフェ(対話と交流)

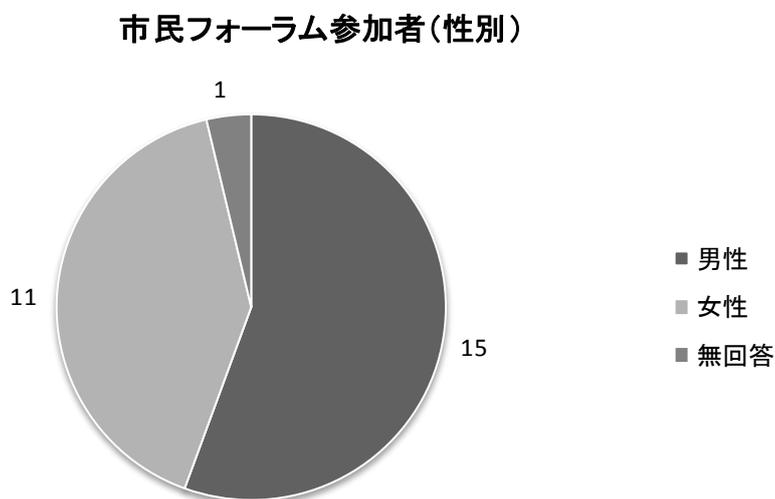
参加者総数 :49 名

有効回答数 :27 件

2.アンケート集計結果

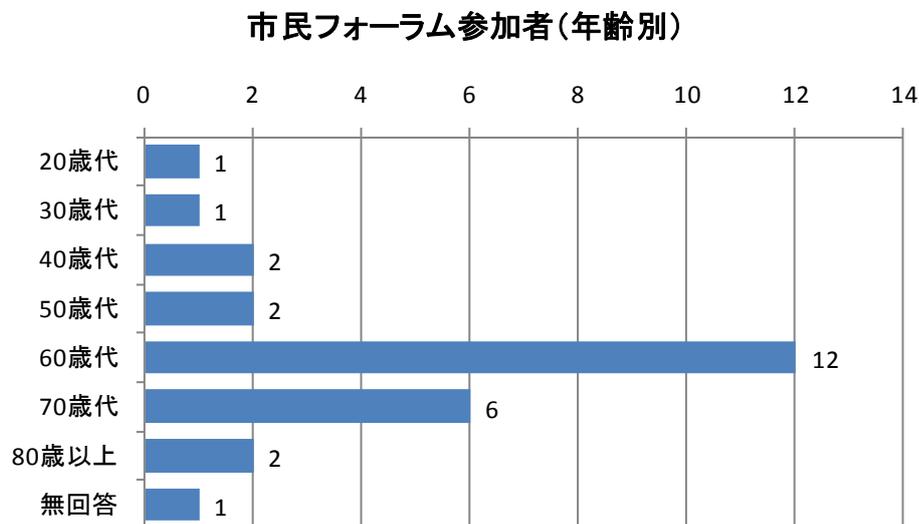
(1) 来場者の属性

① 性別



回答があった 27 件のうち、男性が 15 件、女性が 11 件、回答なしが 1 件でした。

② 年齢別

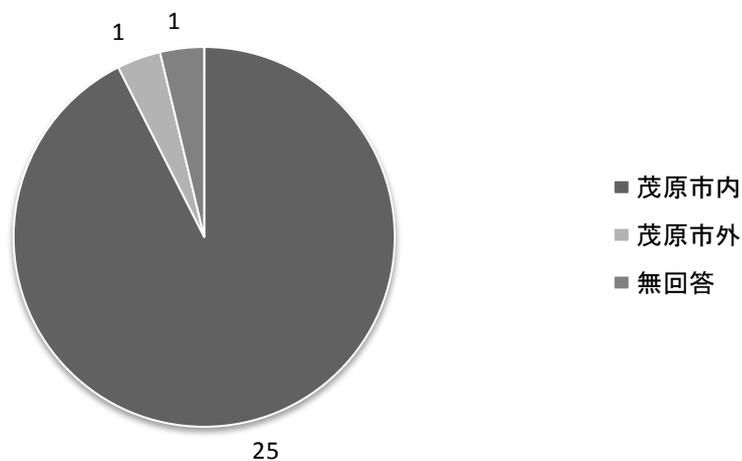


60代が最も多く、次いで 70代となりました。

③居住地別

ほとんどが市内からの参加でした。

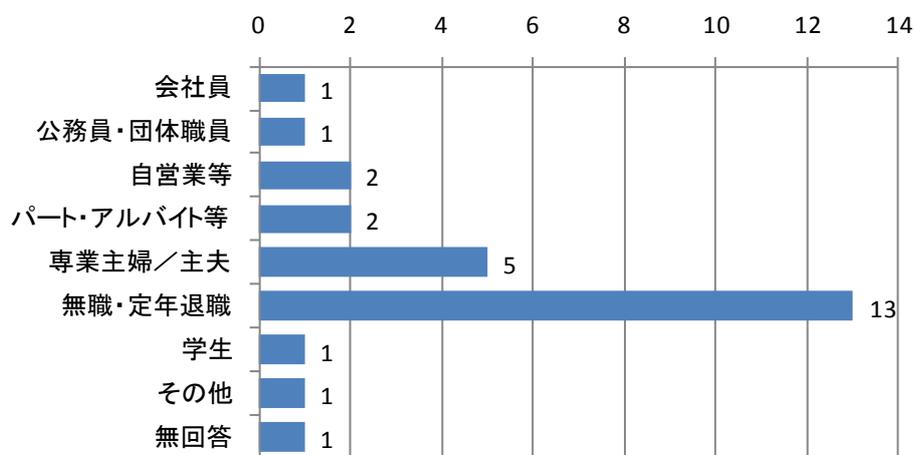
市民フォーラム参加者(住所)



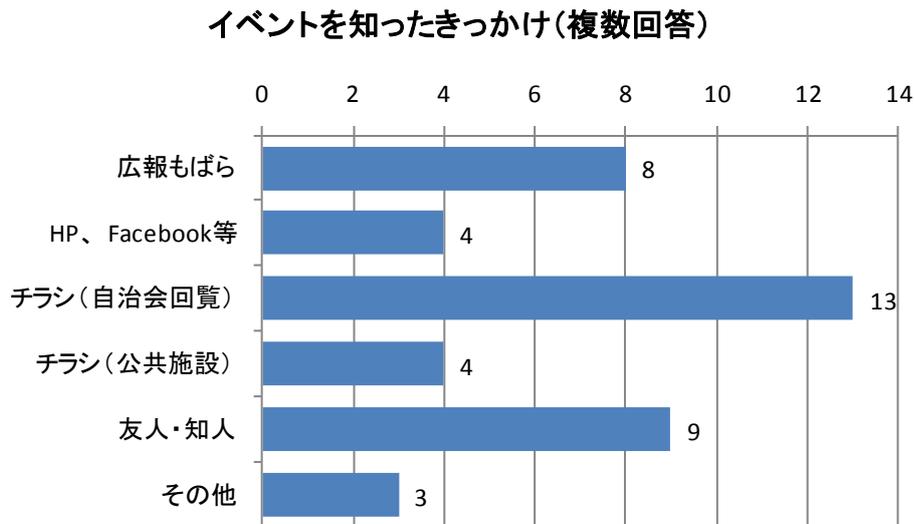
④職業

「無職・定年退職」の方がもっとも多く、次いで「専業主婦・主夫」の方となりました。

市民フォーラム参加者(職業別)

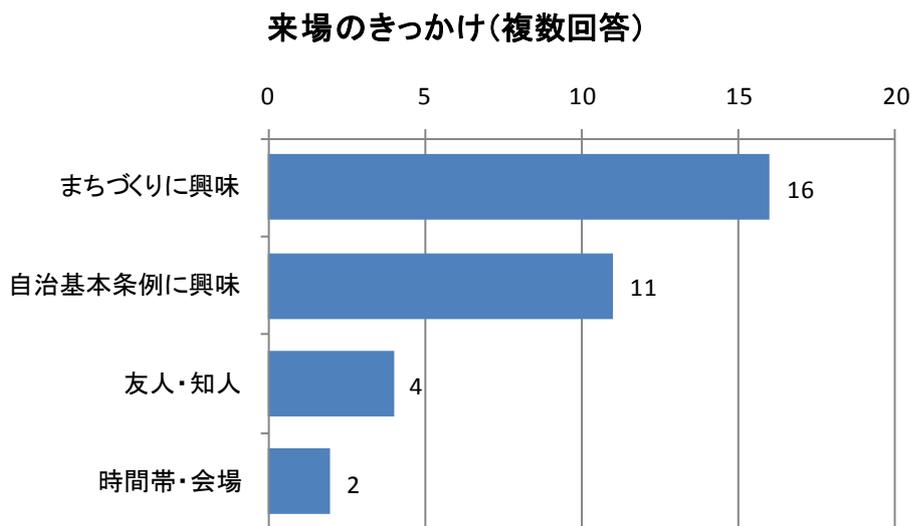


(2) イベントを知ったきっかけ（複数回答）



チラシ（自治会回覧）が最も多く、次いで「友人・知人に誘われて」「広報もばら」となりました。

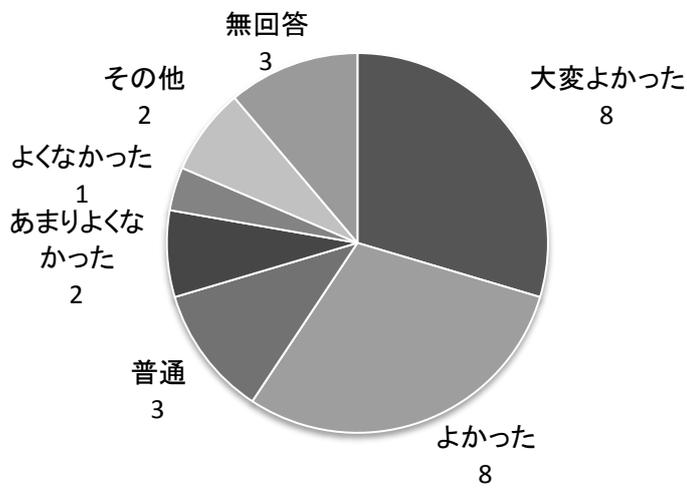
(3) 来場の動機（複数回答可）



「まちづくりに興味があった」が来場のきっかけであった方が最も多く、「自治基本条例への興味」となりました。

(4) 第一部（市民の会からの報告、基調講演）の感想

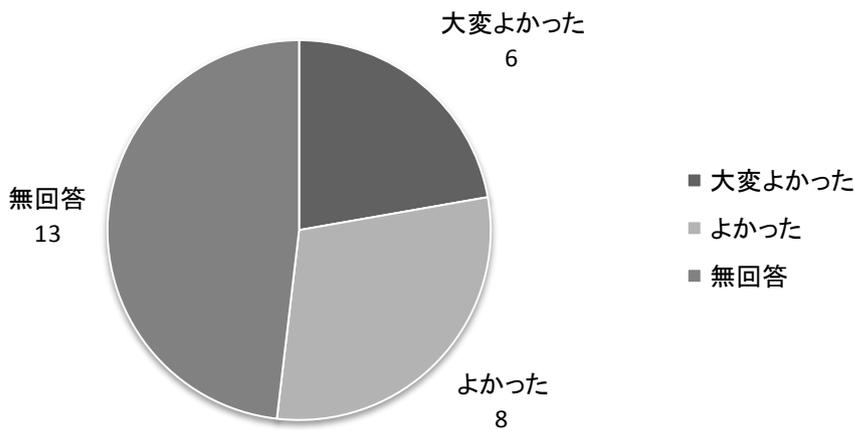
第一部の感想



「大変よかった」「よかった」と回答した方が半数となりました。

(5) 第二部（ワールドカフェ）の感想

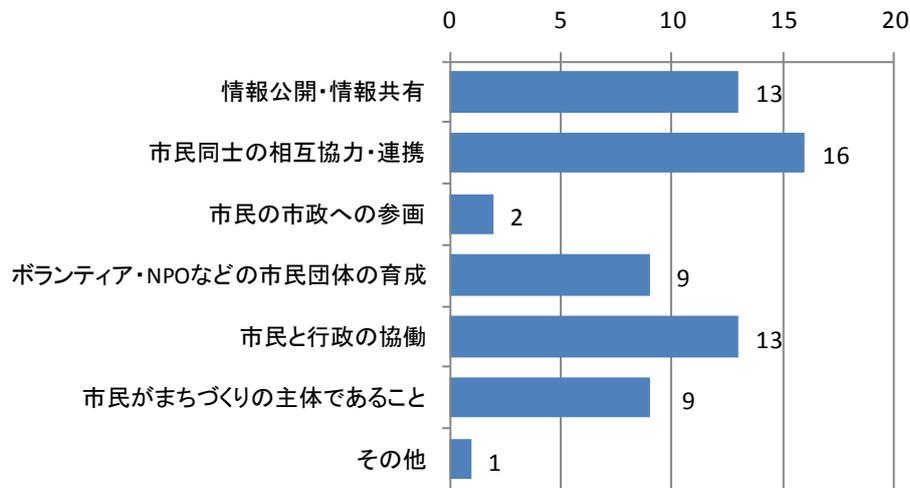
第二部の感想



第一部でお帰りになった方もおり、半数の方が無回答でした。

(6) 今後の市民参画・市民協働のまちづくりで大切だと思うこと（複数回答）

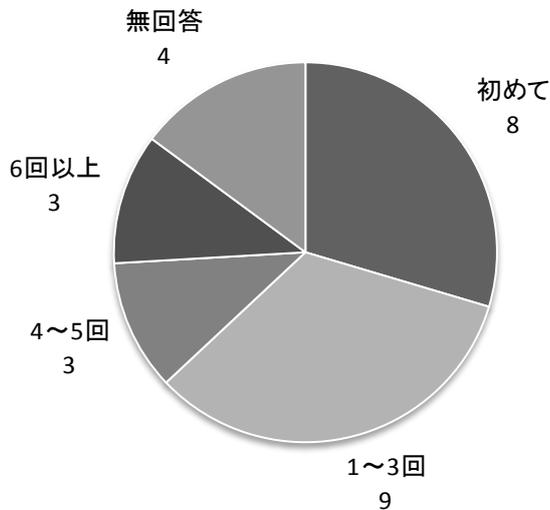
市民参画・市民協働で必要なこと(複数回答)



「市民同士の相互協力・連携」が最も多く、次いで「情報公開・情報共有」、「市民と行政の協働」となりました。

(7) まちづくりイベントへの参加経験

まちづくりイベントへの参加



初めての方や 1～3 回の方が多い結果となりました。

3.主な自由記述

■第一部（市民の会からの報告、基調講演）について

- 市民の会からの報告は、皆さん頑張っていることが伝わってきました。換気のためか、冷房のように冷えていて、参加しているのが苦痛でした。（60代・女性）
- 報告…5分程度でという条件で発表するなら、それは厳守すべきだったと思う。基調講演…議論し尽くしていないから意見がまとまらないというコメントが新鮮に感じた。（30代・男性）
- 市民参加のルールづくりの方法が少し理解できました。（70代・女性）
- 少し長過ぎた（60代・男性）
- 具体的な事例が多く、わかりやすかった。（50代・女性）
- 関谷先生のお話はわかりやすく、私にも理解できて、ああなるほどと思うことがありました。（60代・女性）
- 時間が長かった。長くかかりすぎ。計画どおりにいかなかった。（60代・女性）
- それぞれ認識が異なると思うので、参加者の理解をどのくらい得られているかわからないが、今回は参加して下さった方々にありがとうございますと言わなければならないと思います。（70代・女性）
- 一部に早口で聞きとれないところがあった。（80歳以上・男性）
- ご多用なところ細かくまとめていただきありがとうございました。（80歳以上・男性）
- 市民の会からの説明で何が要点かつかめず、説明が長すぎる（60代・女性）
- 自分の言わんとすることがまとまらない（70代・女性）
- 残念ながら、あまりよくなかった。（60代・男性）

■第二部（ワールドカフェ）について

- 若者の意見を聞く機会がもっと必要（60代・男性）
- 時間がなかった（60代・男性）
- 時間が足りなかった（40代・女性）
- いろいろ気づきがあった。人の視点が違って面白かった（50代・女性）
- 時間がなかったのもっとお話したかったです。（60代・女性）
- 市民側のやる気を起こす。最重要点は、行政側が情報公開・共有を市民側へ徹底供給できるかどうか。市民同士の相互協力・連携のためには、参画・協働のテーマはもちろんとし、参加市民の人間力（思考・発言・傾聴など）深化も含めたい。（60代・男性）

■全体について

- 少子高齢化に伴い、1つの自治会に独居老人も増加しており、孤立化を防ぐために、自治会で協議したいと思いますが、小さい団地（約80世帯）なので、継続させるためにはどんなことがポイントになるのか悩んでいます。（70代・女性）
- まちづくりの語はハードなもので、社会づくりのものにまで使うべきではない（60

代・男性)

- どうやって無関心な人たちを話し合いの場に引っ張ってくるかということ。小さな一歩の積み重ねしかない。(60代・女性)
- とある協会における事務局(市)との関係がよくわからない。事務的なことをやっていただけなのでとてもありがたいが、いざとなると動きにくいのが難点。(50代・女性)
- 従来の行政主導が当たり前を受け止められている中に、一石を投じる手立ては具体的にどうすればよいかと思う。例えば行政には何かしてほしい、やってくれるという発想を転換するにあたり、何をテーマにしていけばいいのか。(60代・女性)
- 住民の意識が高まらない理由、若者が参加しない理由、地域の絆を強める方策は？茂原に活力がないのはなぜ？住民の多様化する要望にどう対応するのか。(80代・男性)
- 住民にまとまりがなく、多忙で、まちづくりへの関心がないことが残念です。(80代・男性)
- 高齢化社会に向かうため、自治会のあり方が必要だと思うので、その方面の指導がほしいです。(60代・女性)
- 今回の市民塾のような催しを数年おきに開催してほしい。そのとき、市民側からの自発的なテーマ別勉強会・発表・討論が発足し、参加市民が切磋琢磨できれば、市民参画・市民協働の良い活動を何かにつけて引き出す手引きとなるかもしれない。(60代・男性)
- 急がず時間をかけて作成する。市民・議会・市役所(行政機関)が同列の協働作業となる。市民は徐々に学習し、質の向上を図り対処する(市民でつくる勉強会グループの設立も考える)。議会は対象とする人数も少なく、事の流りに合わせることに上手な組織(価値観は多様)議題は少ない(問題が提起されても特化して解決する)。市役所は昭和22年制定の地方自治法・地方公務員法の法律に定めることが的確に実行されていれば、対応能力を一番備えているべき組織体であるが、地域住民に対する情報公開等について、明治時代以来、国→県→市区町村の行政サービスの縦系列の流し方に長い歴史の中で慣れたところほど意識改革(職員個々人も変化を求められる)が難しく、相当の準備期間と対応策が必要。千葉県下で流山市の制定は全国で一番でNPO法人の登録する団体もあり、市と民間で協調の姿勢ができています。一定周期見直しする。(70代・男性)